三つどもえの歴史戦?-– 日本・韓国・在日コリアン

林晟

〈キーワード〉 歴史戦 謝罪 正義 ナショナリズム パブリック・ヒストリ

冷戦の暮れ方

ている。LIOの主柱ともいうべき自由民主主義、資本主義、国際協調主義のいずれもが世界で動揺しているわけだが、その程度を(3) は、第二次大戦後から構築されてきたリベラルな国際秩序(LIO: liberal international order)は溶解したかをめぐって議論が深まっ めぐっては見解が一致していないし、そもそもLIOは存在してきたのかどうかをめぐっても議論がつづく。いずれにせよ、冷戦 冷戦後、ポスト冷戦後の意味が広く問い直されるようになったことはたしかである。 ルリンの壁が崩壊した一九八九年から三〇年が過ぎると、今度は米中間の新たな冷戦が予感されるようになった。国際政治学で

壁が崩れおちた翌年の秋、大半の人びとが予想だにしないかたちで東西ドイツが統一し、一九九一年の暮れにはソ連がなくなっ

⁽¹⁾はやし・せいいち(seiichihayashi0884@gmail.com):慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程中退。専攻は国際政治学。在日コリアン三世。担当科目は教養 総合Ⅱ (高三)、歴史(中学)。

² 新たな冷戦(new kind of cold war)はEconomist, 18 May, 2019の特集記事を参照。LIOをめぐる議論は 『アステイオン』(第八八号、二〇一八年)の特集記事をそれぞれ参照 『国際問題』(第六六八号、二〇一八年一月)、ならび

れ少なかれアメリカを中心とする「新世界秩序」(New World Order) が構想されるようになった。 た。すると、 冷戦の終わりはあれよとアメリカ (西側) の勝利と置きかえられることが一般的となった。そして九〇年代には、

明の衝突」、そしてトーマス・フリードマンの「レクサスとオリーブの木」(明るい経済的グローバル化)ということになるだろう。そ う予感も生まれた。ことフクヤマやフリードマンの議論は、およそ三○年後からは想像しきれない多幸感をまとっていた。 ある。一九九○年から九一年の湾岸戦争にさいし米ソが協調したことで、ミレニアムを目前にそれまでとは異質の世界が到来するとい^(⑤) れぞれの議論には粗いところもあり批判も多かったが、マルクス主義の退潮のなかで世界の大胆な展望が示されたことは評価すべきで そのうちもっとも広く知られた定番を三つあげるなら、フランシス・フクヤマの「歴史の終わり」、サミュエル・ハンチントンの

国民としての誇りの回復を求める動きも強まりをみせた。すると、国家間で歴史問題がつとに熱をおびるようにもなり、ナショナリズ 史戦が国際的に広がった経過を確認した上で、 ムが激しくぶつかりあったのである。本稿では、こうした冷戦後の三○年に深刻化した東アジアの歴史戦の諸相をながめる。まず、 かった。フリードマンの展望するかたちで経済的グローバル化がポジティブに深化したとはいえず、国境という経済の障壁が小さくなること 無視できなくなっている。一方、 もなかった。むしろ自由民主主義のおひざもとたる欧米諸国で自由民主主義への不信が深まり、経済格差を広げるグローバル化のひずみが 先進各国では、こうした経済的停滞や政治的動揺にともなってナショナリズムが高揚しがちであった。それにあわせ、自国の歴史に もちろんその後の世界を我々は知っている。フクヤマの描いたように自由民主主義が普遍化し、闘争の人類史が終わるということはな 当初は現実ばなれしているとの評価さえ少なくなかった「文明の衝突」論がかえりみられるようになった。 韓国、 日本、そして在日コリアンの立場からする歴史戦の意味をさぐってゆきたい。 歴

冷戦後の国際潮流――謝罪と正義

にはケヴィン・ラッド首相が公式に謝罪した。このほかニュージーランド、 とえばオーストラリアでは、 カリブ海諸国やアフリカ諸国は、 節で見たような冷戦後の世界では、 一九九七年に各地方政府がアボリジニの「盗まれた世代」(Stolen Generations)に謝罪し、二〇〇八年 奴隷貿易や植民地化についてヨーロッパ諸国に謝罪を求めるようになった。 戦争責任や植民地責任が国際問題化し、「謝罪の時代」(ロイ・ブルックス) カナダ、アメリカの各政府も先住民への謝罪をおこなっ が到来した。た

るアメリカのユダヤ人歴史家デボラ・リップシュタットを相手に名誉毀損訴訟を起こしたのは一九九六年のことである。⑻ 正主義をめぐる争いも目立つようになった。ホロコースト否定論者のイギリスの歴史家デイヴィッド・アーヴィングが、 そのヨーロッパでは、ナチスによるユダヤ人虐殺や東ヨーロッパの人びとの徴用をめぐる謝罪や補償が広く求められるようにな 二○○○年にはドイツ企業およそ六五○○社とドイツ政府が「記憶・責任・未来」基金を創設した。この流れにあわせ、歴史修 彼を批判す

日本でも近年一般的となった歴史戦(history wars)という表現は、一九九五年のエノラ・ゲイ論争をきっかけにアメリカで生まれた。

- 3 藤原帰一「冷戦の終わりかた― -合意による平和から力の平和へ」東京大学社会科学研究所編 『20世紀システム6 機能と変容』東京大学出版会、 一九九八
- 4 フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』渡部昇一訳、三笠書房、一九九二年 社、二〇〇〇年(原書:一九九九年)。 集英社、一九九八年(初出論文:九三年)。トーマス・フリードマン『レクサスとオリーブの木――グローバリゼーションの正体』東江一紀ほか訳、 (初出論文:八九年)。サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』鈴木主税訳、
- 5 日本では世界の大きな見取り図を提示する動きがとぼしかったが、以下はその数少ない例外に属する。田中明彦『新しい「中世」― ム』講談社学術文庫、二〇一七年(初出:一九九六年)。 -21世紀の世界システ
- 6 日本では、二〇一七年に『文明の衝突』が文庫化された(集英社文庫、上下)。同年、ハンチントンがアメリカのエスニックな分断を批判した論争的な書 『分断されるアメリカ』(鈴木主税訳、集英社、二〇〇四年)も同文庫に入った。
- 7 永原陽子「『植民地責任』論とは何か」同編『「植民地責任」論――脱植民地化の比較史』青木書店、二〇〇九年、 一頁
- 8 経過については、この訴訟を描いた映画『否定と肯定』(ミック・ジャクソン監督、二〇一六年)が参考になる。併せて以下を参照。「フェイクとどう闘う とユダヤ人』みすず書房、二〇一七年、 . 歴史学者、 デボラ・E ・リップシュタットさん」『朝日新聞デジタル』二〇一七年一一月二八日。武井彩佳『〈和解〉のリアルポリティクス――ドイツ人 一三九~一四三頁。 同「修正主義の危険性 歴史教育で『悪意』 封じよ」『朝日新聞デジタル』二〇一八年一月一一日。
- 9 10 菅豊「パブリック・ヒストリーとはなにか?」菅ほか編『パブリック・ヒストリー入門 集英社新書、二〇一九年、 歴史戦 朝日新聞が世界にまいた「慰安婦」の嘘を討つ』産経新聞出版、 第一章。 山崎の指摘するとおり、 おもに慰安婦問題をめぐって産経新聞がこの表現を広く用い、 二〇一四年。 -開かれた歴史学への挑戦』勉誠出版、二〇一九年、五六頁 山崎雅弘『歴史戦と思想戦 -歴史問題の読み解き

表 1 重大な人権侵害者の訴追の地域別内訳(1979 ~ 2009 年:%)

X1 = X3 X (EXCEL EVEN) (10.10					
	国内での訴追	国外での/国際的な訴追			
アメリカ大陸	55	17			
ヨーロッパ	25	51			
アフリカ	13	17			
中東・北アフリカ	1	10			
アジア	6	5			

出典: Kathryn Sikkink, Justice Cascade: How Human Rights Prosecutions are Changing World Politics, W. W. Norton, 2011, fig. 1.2 and 1.3 をもとに筆者作成。

修正

一主義の

台

頭、

いい

ては国際社会での孤立を招くの

が べせい

ぜい

であ

が

基本的

に変わ

てい

ない

ことが

わ

かる。

たの 冷 であ 戦期 別には る。 東西対立下で沈潜してい 世 紀のとば口で、 政治学者の たさまざまな歴史 藤 源原帰 はこれ 問題が を だんだんと 国 . 際 政 治 あ 5 0 ゎ 倫 になり、 理化」とよんだ。 点化 口 この

にわたり

·変更された。

初

博物

館

側は広島から被爆資料を借りうけ、

年、

広島

0)

原爆投

下に関するスミソニアン航空宇

宙

博

物

館

0

特

別

展

の内容が、

少

五.

てもらうつもりだった。だが、

太平洋戦争や原爆投下を正戦

、正義と信じる退役軍人や市民が強く

投下の意味を見学者に考え

判

議会でも保守勢力がこれに同調していった。

加害の 憲法 `記憶を持ちつづけることがグロ 九条をか かげ てきた平 和 主義国家日本とてその例外ではなかった。] バ ルに要請されるようになった。 従 来こ

なっ

するとその

Ē

しさは過去を反省する態度にまで求められるように

彼によると、

冷戦

後は

むき出

しの

権力にもとづく汚れた平

和より、

正

L

13

平

和

やすく

になり、

か が

つての 志向され

敗

戦

国

は

0)

玉

で

は

沖

縄

され 戦 要求に恣意的 を棚上げにする てきた。 東京大空襲、 だが 側 便法のようにさえ映ってしまう」。 面 で 二 広島 国 外 からす 重 |基準があるのは事実だが、 長 崎 n 0) ば 原爆投下などの被害面に特化しながら 犠 牲者史観に過ぎず、 もちろん戦勝 それを難じるだけ 悪くす 国 れば ĺΗ 加害行 で 植 は 民地 アジア 玉 内 為を忘却 国 で から 太平 0 排 の記 外 洋 L 主義 憶に 戦 戦 争 Þ 関 争 が 責 す 記 史 Ź 憶 任

在、 慰 原 安婦 は Þ 0 徴 Ŏ 用 工をめぐる日 年 の段階で冷 韓 戦 0 後 |歴史問 0 潮 目を右のようにとらえた。 題 が尾をひいていることをながめれ それから二〇年近く ば、 グ 口 1 経 バ ル 0 た現

せ、 こをも 冒 .诗 É に、 玉 視野に入れる必要がある。 0) 権威主 \exists 韓の 歴史問題の 体制 (軍事 り場合は、 政 権 九〇年代以後、 期の迫害を明らかに 韓 量が 九八〇年代後半 韓 :国の活動家は手ずから実現した民主主義を深化さ 謝罪を求める動きを強めた。 から 民主化を定着させてきたというこ

こうした韓国内の動きは、 九七〇年代以後の 「第三の波」 とよばれる民主化ラッシュを経た国

となったマンデラ大統領の南アフリカ、九〇年代からフランコ政権期の迫害を究明する動きを強め、二〇〇七年に歴史記憶法を成立さ にて、かつて重大な人権侵害をおこなった者を告発・訴追する流れが世界的に拡大したのである。旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所 者に対して救済の手をさしのべること」と定義する。国内、もしくはアドホックな国際法廷や国際刑事裁判所(ICC:二〇〇二一) 社会で、移行期正義(transitional justice)とよばれるものにあたる。法学者の横田洋三は、これを「民主的政治体制が実現した国にお せたスペインの例などがよく知られているだろう。 いて、その前の時代に行われた虐殺、拷問、略奪、強姦などの重大かつ大規模な組織的人権侵害行為の責任者を逮捕して処罰し、被害 (ICTY:一九九三年設立)に起訴されたミロシェヴィッチ元大統領ほか三名の裁判、アパルトヘイトを廃止し一九九四年に大統領

界で二五にも満たなかった重大な人権侵害者の訴追数は、 ○九年には四五○件弱となった。その地域的内訳は表1にあるとおりで、こと国内における訴追は、 政治学者のキャスリン・シッキンクは、これを「正義のカスケード」(justice cascade)とよぶ。彼女によると、一九八九年には 冷戦終焉とソ連崩壊を経てから急増し、 九九年には一五〇件をこえ、二〇 中南米の権威主義体制 世

- $\widehat{11}$ 「ヒロシマから70年、米国人の大半は今も原爆投下を肯定」AFPBB News、二○一五年八月六日(https://www.afpbb.com/articles/-/3056552 二日最終アクセス。以下、 -歴史のなかの「エノラ・ゲイ」』山岡清二監訳、みすず書房、一九九七年 本稿で言及するウェブサイトの最終アクセス日はすべて同日)。論争の経過は以下に詳しい。マーティン・ハーウィット 二〇二〇年一月
- 12 この側面は以下に詳しい。吉田裕『日本人の戦争観--戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、二〇〇五年
- $\widehat{13}$ 藤原帰一「抑止としての記憶--国際政治の倫理化とその逆説」同『新編 平和のリアリズム』岩波現代文庫、二〇一〇年所収 (初出論文:二〇〇一年)、一二八頁
- 14 『ワセダアジアレビュー』(第一五号、二〇一四年)は移行期正義と東アジアの歴史問題を特集しており、有益である
- (15)イミダスのウェブサイト(https://imidas.jp/genre/detail/D-103-0087.html)
- 16 ただし、これが人権状況の改善や民主化の安定をもたらすかどうかは定かになっていない。下谷内奈緒 ディレンマ』岩波書店、二〇一九年、一一頁 『国際刑事裁判の政治学 平和と正義をめぐる
- 17 Kathryn Sikkink, Justice Cascade: How Human Rights Prosecutions are Changing World Politics, W. W. Norton, 2011, introduction (page unspecified with Amazon Kindle)

盧武鉉政権期に成立したおもな過去清算関連法

2004	三清教育被害者の名誉回復および補償に関する法律
	特殊任務遂行者補償に関する法律
	特殊任務遂行者支援に関する法律
	日帝強占下強制動員被害真相糾明等に関する特別法
	老斤里事件犠牲者審査および名誉回復に関する特別法
	東学農民革命参与者等の名誉回復に関する特別法
	日帝強占下親日反民族行為真相糾明に関する特別法
2005	日帝強占下反民族行為真相糾明に関する特別法
	真実・和解のための過去事整理基本法

出典:藤永壯のウェブサイト (http://www.dce.osaka-sandai.ac.jp/~funtak/papers/joukyou_0510. html) に掲載される年表より抜粋。

をしたとされる親日派やその子孫からは法の不遡及の原則

彼らを糾弾する動きが政治的、

社会的に加速した。

では

正

義

0

カスケー

ķ

が

起きた。

日韓

の歴史問題の文脈では、

盧武鉉政

を

0

0)

当時政権に入ってその

虚武鉉

近年の日本に対する彼の

右

のとおり

冷戦後の

世界は

一謝罪の時代」に入り、それと軌を一にして、

民主化 権期

した国

を支えてい

たのが文在寅現大統領

(一七一)であったことは、

境として両者が統合するようになったと評価できるだろう。

理

委員会」が成立した

(二〇一〇年解散)。

そして、

植民地時代に日本当局

利 0 植

する 過去事

に反するとの

批判があったも

にまで拡大されたからである。

二〇〇五年には同政権下で「真実・和

解の

ため 前

整

ŋ

真

(相究明

0

射

程 が、

自

国

... の

権威主義体制

(軍事政権)

期のみならず

戦

0

苠 ħ

(地時

代

期 にまつ わるも 0) が半数以上を占めて

全斗煥少将らのクーデタ達成後、

戒厳軍が光州市民を多数殺傷した八○年の5・ 済州島島民を虐殺した四八年以後の4・3事

18事件

えば李承晩政権下で韓国

[軍と米軍

が

過

去清算の

動きは盧泰愚政権期

(一九八八一九二) にはじまり、

0011

に

拡大」

Ļ

盧.

武鉉政

権期(〇三一〇七)に

「飛躍」した。こうして、

たと

金大中政権期

(九八一二

おおまかに見ると、

0

真相

究明がすすめられた。

着

目

すべきはやはり

飛躍」

期たる盧武鉉政権下での動きである。

表2に示さ

ると

権 九九〇年代以後、 韓国でもまさに移行期正義の実践がすすんだ。

硬姿勢の背景として重要である と正義の支柱 国際法と女性の人権

で

は

冷

戦

後

0

謝

罪

0)

時

代」と

正

|義のカスケード」を支えた柱は何であろうか。

少

わせてナショナリズムを相対化するかたちで女性の人権への意識が高まったことを外すことはできない。 世界的に国際刑事司法がめざましく発展し、重大な犯罪や人権侵害をした個人を訴追するしくみが整ったこと、それにあ

と極東国際軍事裁判のあと、国際刑事司法の発展はほとんど見られなかった。冷戦期には、秩序の維持と正義の追求のうち前者が優 を裁こうとする動き、すなわち「不処罰の克服」をめざす動きが欧米を中心に強まった。(፡ヌ) 先されがちだったといえよう。 る国際法学者たちに、「圧倒的なまでの賛辞をもって迎え入れられ」た。第二次大戦にかかわる罪を裁くニュルンベルク国際軍事裁判 もちろんその一里塚は、二○○二年に発足したICCである。ここではジェノサイド、人道に対する罪、 前者の発展は、 アナーキカル・ソサイエティとよばれることもある国家間関係を国際法の支配下におくことが平和の条件だと考え(ミョ) しかし冷戦後は、 ICTYの設置を皮切りに、 国際的な刑事裁判をつうじて重大な罪をおかした個人 戦争犯罪、 そして侵略犯

- 18 李在承「韓国における過去清算の最近の動向」『立命館法学』第三四二号、二〇一二年、三八二頁
- 19 韓国人にとって両日付は朝鮮戦争を意味する6・25同様にふかく胸に刻まれている。社会問題と娯楽性を高度にかけあわせる韓国映画は、そうした公共の また同事件を背景とした『1987、 記憶の維持に貢献している。5・18事件を扱った『光州5・18』(キム・ジフン監督、二〇〇七年)や『タクシー運転手』(チャン・フン監督、二〇一七年)、 二〇一二年)は低予算の独立系作品たりながら、やはり異例のヒット作となった。 ある闘いの真実』(チャン・ジュナン監督、二〇一七年)はそれぞれ話題となった。他方、 4・3事件を扱った『チス
- 20 この当時の日韓の歴史問題は以下にまとめられている。ジョン・スウェンソン=ライト、 添谷芳秀ほか編著 『「普通」の国日本』千倉書房、二〇一四年、 二一八~二四七頁。 林晟一訳 [[普通] であることの限界? -ポスト冷戦期の日本と
- $\widehat{21}$ ヘドリー・ブル 『国際社会論― ―アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳、 岩波書店、二〇〇〇年。
- 22 「解説」ウィリアム・シャバス 『勝者の裁きか、正義の追求か―― -国際刑事裁判の使命』鈴木直訳、岩波書店、二〇一五年、一二一頁
- (23) 下谷内、前掲『国際刑事裁判の政治学』、六頁。
- ただし、ICCの設立と訴追の制度化により、処罰をおそれる独裁者が政権維持に固執し、民主化や紛争終結が阻害されかねないとの批判もある(下谷内、 同上、二頁)。また、訴追が多く見られたアフリカでは各国がICCに反発を強めてきた(大沼保昭 『国際法』ちくま新書、二〇一八年、一五二頁)。

されたとき、 罪 プ・キャンプ」がとりわけ欧米諸国に問題視されていた。 、の四つに限定して個人を裁くようになった。重要なのは、一九九八年にICC設立のもとになったローマ規程が国際社会で採択の四つに限定して個人を裁くようになった。 戦時性暴力が人道に対する罪に認定されたことである。九○年代は、ボスニア紛争(一九九二−九五)における「レイ

Reconciliation Commission)をつうじて正義の実現が図られた。 実・和解のための過去事整理委員会」もその一つである。 個人の訴追がなされない場合は、 紛争終結後や民主化後に各国でつくられた「真実和解委員会」(TRC:Truth こうした動きは世界的に共通となり、 盧武鉉政権期に成立した「真

史がジェノサイドの象徴として世界に記憶されるようになったが、それ同様、 二一世紀のさまざまな紛争地で見られる性被害を接続し、通時的にとらえることは容易となる。一九七〇年代からホロコーストの歴 昭和天皇をはじめとする九名の「被告」が「有罪」と「判決」されたことの衝撃は決して小さくなく、のちに保守派が批判を強めた。 いたのが、 右のような流れのなか、二○○○年に日本の女性団体が元慰安婦のハルモニ、活動家、 「際的に戦時性暴力が明らかな罪とされ、 女性国際戦犯法廷である(翌年ハーグで閉廷)。これは「民衆法廷」であり公権力は関与しなかったが、慰安婦問題につい -こう見立てる日本史研究者のキャロル・グラックは、次のように展望する。 女性の人権への意識が深まったという流れにしたがえば、二〇世紀前半の慰安婦問題と 九〇年代からは慰安婦の歴史が戦時性暴力の象徴 国際法学者、法曹を海外から東京へ招いて開 7

はないだろう。 擁護という視点からも語られるようになった。もはや慰安婦像があろうがなかろうが、 「慰安婦」は、アメリカだけでなく、今や国境を超えて過去における戦争の記憶の一部となり、 グローバルな戦争の記憶から消えること 将来に向けては人権や女性の 利

ことも多い。 動家は歴史問題のいっそうの進展を求めるようになっていると思われる。 国家間での理念や価値あるいは認識をめぐる争いは、 他方、 先に見たグロ ーバルな二つの動向に勇気づけられるところが大きいだけに、とりわけ慰安婦問題にたずさわる活 利益を争うときより妥協がむずかしく、 いたずらに時間ばかり過ぎる

により相対化されつつあるといっても過言ではない。二〇一八年一一月に韓国女性政策研究院が二〇代女性を対象におこなった調査 る。 ここで確認しておきたいのは、 近年韓国のフェミニズム文学が日本に多数紹介され、支持を集めているが、 少なくとも慰安婦問題については国民間 /国家間の対立という割りきり方がもはやできない点であ 韓国社会では、 日韓国民間の断層線が男女間のそれ

性優位社会をきらう女性が多いことは容易にうかがえる。 ント)。高慢ちきな日本政府を憎々しいと思うのと同程度に、女性嫌悪や盗撮(3)。 eToo運動を支持する者は八○・二パーセントであった(二○代男性の回答はそれぞれ一○・三、四三・六、六九・四パーセ 自身をフェミニストだと考える者は四二・七パーセント、社会における女性嫌悪が深刻だと考える者は六九・四パーセント、 -ともに韓国人女性が強く糾弾する-―にまみれた男

問題解決のための正義記憶連帯。 また、一九九〇年代から元慰安婦のハルモニの人権や名誉のために活動してきた韓国挺身隊問題対策協議会 以下「挺対協」「正義連」) は、 戦時性暴力をなくすための国際的な連帯を志向している。 (現、 日本軍性奴 同団 |体は 禄制

- (25) 二〇二〇年一月現 10&chapter=18&clang=_en) 在の締約国は一二三カ国である。 国連ウェブサイト(https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=TREATY&mtdsg_no=XVIII
- (26) この点は以下に詳しい。シャバス、前掲『勝者の裁きか、正義の追求か』、第二章。
- 27 開催の経緯は以下を参照。 二〇〇三年一〇月号 柳本祐加子「2000年『女性国際戦犯法廷』という経験 第21回山川菊栄賞を受賞して」『学術の動向』 日本学術協力財団
- 28 キャロル・グラック『戦争の記憶 ――コロンビア大学特別講義 学生との対話』講談社現代新書、二〇一九年、 一四五頁
- 29 火つけ役となったのはチョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』(斎藤真理子訳、筑摩書房、二〇一八年)である。彼女も寄稿する河出書房新社の 子責任編集『完全版 韓国・フェミニズム・日本』(河出書房新社、二〇一九年)として単行本化された。 藝』二〇一九年秋季号の特集は「韓国・フェミニズム・日本」だったが、一九三三年の同誌刊行以来八六年ぶりの三刷となった。のち、同特集は斎藤真理 文
- 30 韓国女性政策研究院ウェブサイト (https://www.kwdi.re.kr/publications/kwdiBriefView.do?p=1&idx=122966)°
- 31 フェミニズム・エッセイ人気のきっかけとなったイ・ミンギョン『私たちにはことばが必要だ――フェミニストは黙らない』(すんみ ほか訳、タバブック 手がかりに 迅速な捜査をしないくせに」と憤った女性たちがこぞってデモに参加した。これは「韓国のフェミニズム関連デモで最も大きかった」(小川たまか 同事件の与えた影響は大きい。また、盗撮は韓国の深刻な社会問題の一つである。一八年夏、 ス、二〇一八年)の冒頭では、二〇一六年に江南駅付近のトイレで起きた女性殺害事件の犯人が女性嫌悪者だったことが強調される。 -日本と韓国のフェミニズム」前掲『文藝』、一七九頁) 意趣返しに男性を盗撮した女性が即逮捕されたとき、 韓国フェミニズムに 「痛みを

の生存者への謝罪もふくまれる。 戦争中の韓国軍兵士による民間人虐殺や性暴力をベトナムで学ぶ「ナビ平和紀行」の参加者を毎年つのっており、その旅程には 「世界市民」をかかげてもいて、韓国人としてのナショナリズムはその分後景にしりぞいているだろう。二○一三年からは、ベトナム 現

ついてベトナムの被害者に謝罪するという構図である。 正義連のウェブサイトには、慰安婦だったハルモニの 「謝罪」のことばがのっている。 かつての被害者が、 自国男性による加害に

なる子どもたちやその次の世代には決して戦争があってはなりませんから、 私も日本軍により「慰安婦」被害を受けましたが、ベトナム戦争で韓国軍により性暴力被害を受けた女性たちに、韓国国民とし て謝罪いたします。 (引用者訳) みなさんが生きている間生活に困らないよう、一生懸命ナビ基金を集め、支援いたします。これから大きく 戦争のない世界になるよう各国が力を尽くすべきだ

正義連やハルモニの姿勢には、 国境をこえて女性の人権向上や戦時性暴力の廃絶をめざそうとする、ただならぬ意志を見てとれるだ

かかわる支援が世代と国境をこえていることはたしかであろう。 ハルモニたちの支援活動に熱心に参加していたこと、そして日本をふくむ海外からの訪問者が目立ったことである。 ソウルの日本大使館前におかれた平和の少女像 (正式には平和の碑) を何度か訪ねたさいに印象的だったのは、 この付近で中 慰安婦問題に 高

民衆美術の下では、 を大事にしながら創作する民衆美術の伝統を継承している。「日本の植民地からの解放後、膿のように露呈した現代韓国社会の諸矛盾を大事にしながら創作する民衆美術の伝統を継承している。「日本の植民地からの解放後、膿のように露呈した現代韓国社会の諸矛盾 金をもとに少女像を制作した。この像は、おもに一九八〇年代から権威主義体制 二〇一一年、 作品の押収や破壊、 彫刻家の金運成・金曙炅夫妻は、日本大使館前での「水曜デモ」一〇〇〇回を記念する挺対協に依頼され、まますシンと **4;シキッッド 慰安婦にかかわる作品も数多く発表されてきた。(%) 作家の投獄や拷問という類なき血を流しながら民主主義をかちとろうとした時代の表象」としてあった (軍事政権) に抵抗し、歴史の主体たる民衆の立場 の募

ものと同サイズでFRP(繊維強化プラスチック)製の少女像が、 る高校の生徒があらたに建てようと活動をおこなっている。二〇一九年八月はじめには、 少女像にかぎってみても、 市民の要望を受けさまざまなパターンに改められたものが韓国各地に六〇以上建てられ、一〇〇をこえ あいちトリエンナーレ2019の一部をなす「表現の不自由展 ソウルの日本大使館前にあるブロンズ製の

その後」に展示されることになった。

働きかけつづけ、不自由展は一〇月に六日間の展示を再開した。 てきた編集者である。彼女をふくむ実行委員があいトリ実行委員会会長の大村秀章愛知県知事、 だが、抗議の電凸やメールがあいつぎ、安全上の理由もあり不自由展は三日で中止となった。当初よせられたクレームのうち半数 少女像を対象とするものだったという。五名からなる不自由展実行委員会のうち、 岡本有佳は慰安婦問題に勢力的にたずさわっ 芸術監督である評論家の津田大介に

現の る作用を果たす」と懸念している。少女像を、 (%) 害を明示せずジェンダー視点のみにしてしまうことは、 少女像は海をこえ、 不 / 個別という二つの方向性も明らかになってきた。岡本は事件のあと、少女像に関する語りについて「日本軍 自由がそれであったが、今後さらにいかなる問題が提起されるかはわからない。同時に、慰安婦問題にかかわる普遍/一 もはや歴史問題にとどまらないテーマを日本社会や国際社会に提供するようになった。二〇一九年の場合は 日本や東アジアの歴史にまつわる個別的記憶のシンボルとしてもっと尊重すべきだと この作品の原点である『歴史と記憶』を薄め、 植民地支配責任を見えなくす

- (32) この点は以下に詳しい。 伊藤正子 『戦争記憶の政治学 韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道』平凡社、二〇一三年、とくに第一・三章。
- (33) 正義連ウェブサイト (womenandwar.net/kr)。
- (34) 同上。
- 35 古川美佳 『韓国の民衆美術 抵抗の美学と思想』岩波書店、 二〇一九年、 v vii 頁、 および第五章第二節
- (36) 古川、同上、一七四頁。
- 37 岡本有佳 二〇一九年、六七頁 「《平和の少女像》 (平和の碑) の願い」岡本・加藤圭木編 『だれが日韓「対立」をつくったのか 微用工、 「慰安婦」、そしてメディア』大月書
- 38 岡本有佳「〈表現の不自由展・その後〉中止事件当事者として記録する二七〇日の断章」 表現の不自由と日本』岩波書店、 二〇一九年、 六二頁 岡本・アライ=ヒロユキ編 『あいちトリエンナーレ 「展示中止

事

いうことである。

像を一般化してとらえ、「いまや若者にとって『慰安婦』女性は、人権活動家として尊敬すべき存在になっている」とのべる。 遍的に性暴力被害者の連帯をめざす活動もめざましいことは先に見たとおりである。フェミニストの北原みのりは慰安婦問題 少女像制作の依頼者である正義連もまた、 日韓間の慰安婦問題解決への固い決意を崩してはいない。その一方、グロ ーバル か * つ 普

の活動や少女像の認知がグローバル化するに応じて、世界が日韓の慰安婦問題をより相対化し、いっそう女性の人権向上のほうとか もちろん二つの方向性が背反することはまずないし、 むしろ重なりあうことのほうが多い。だが同時に考えておくべきは、 正

らめてとらえる可能性だろう。

らかのかたちで新局面にいたるであろう。 史の使い方はコントロールしきれるものではない。そうした脱文脈化が慰安婦問題周辺にもあらわれるとすれば、 を目的とした知覧 や悲劇に感動することで、自己啓発の糧とする。 これにそなえ想定しておきたいのは、 (鹿児島県) もうでが人気となっていることを、そうよぶ。訪問者は特攻作戦の基地があった知覧で、隊員の心情 歴史認識の脱文脈化である。 歴史を誠実に学ぼうとする者からすれば不謹慎な実践ではあるだろうが、 社会学者の井上義和は、 歴史の理解ではなくあくまで自 日韓関係もまた何 市民の歴 三啓発

ある。これは、 女像を手がけた夫妻は、済州島の聖フランシスコ平和センターにおかれるベトナム人母子像(「ベトナムのピエタ像」)の制作者でも 局面は、 正義連のようにグローバルな実践をすすめることを韓国人男性が支持しきれなくなる場合にも見られるはずである。 韓国軍によるベトナムでの虐殺を記憶し、犠牲者を追悼するためにつくられた。 少

この像を設置する場所を求めて、キム夫妻は済州島にたどり着いた。「少女像」とは異なり、 もう片方を見ないようにしたのである。 んで受け入れてくれる場所を見つけることは難しかったのである。……ふたつの像は切り離され、片方を支持するものの多くは、 自国の歴史的加害責任を問う像を喜

 \exists 修正することはむずかしい。ましてや現代韓国のように、 「本の戦後史をふりかえればわかるとおり、 被害の記憶にもとづく平和主義がかかげられたのち、 歴史上の蛮行の主役としてほぼ男性が想定される場合、 それを加害の記憶にもとづくもの 国内の断層線は

だとすると、ミソジニーをもとに日韓の保守派が連帯するという逆説を念頭におかなければならない。 これはいささかこっけいでは

容だが、 チャンネル「李承晩TV」は、 自虐史観を批判してきた西岡力が編集協力者となり、 韓国と日本で異例の売れゆきとなった。同書の寄稿者はすべて男性で、(42) 現実化しつつある。二〇一九年に経済史家の李栄薫が編んだ『反日種族主義』 早くも日本の保守派の「日本文化チャンネル桜」に字幕つきで多数紹介・転載されている。 文藝春秋から刊行された。 李栄薫が校長をつとめる李承晩学堂のY 日本版は産経新聞編集委員の久保田るり子と日本の は韓国人の慰安婦理解に大幅な修正をせまる内 Ō u T b

及されない。 詰められた保守派の弱小勢力」による「文政権への反撃の一手」と見なし、「政治闘争のための本」だとすげない。澤田の指摘するとお に世界市民をめざすこととはニュアンスがちがう。長らく韓国を取材してきた毎日新聞の澤田克己は、本書を「リングのコーナーに追 ある。このように、ミソジニーをもとにした日韓連帯の輪郭はまだおぼろげではあるが、その芽が出てきたことには注目すべきである。 李栄薫が同書や番組で重視するのは、 同書では自由韓国を築いた立役者として李承晩が冒頭から持ちあげられる一方、 韓日の連帯とはいうが、都合の悪い部分に目をつむることは同書が「反日種族」の常とう手段だと批判するやり方のはずで 自由民主主義国たる韓国と日本の市民の連帯であり、これは正義連がグローバルな連帯をもと 彼が大統領だった時代のきつい反日政策にはほぼ言

³⁹ 北原みのり「日本社会が排除し続けてきた少女」岡本・アライ編、 運動と呼応することに期待をかけてもいる (岡本、 前掲 「《平和の少女像》 同上、二〇六頁。 (平和の碑) 岡本自身、 の願い」、 別の文章では慰安婦問題の活動がグローバルな#MeTo 六九頁

⁽⁴⁰⁾井上義和『未来の戦死に向き合うためのノート』創元社、二〇一九年、第三・四章

⁽⁴¹⁾高橋源一郎「隣の国のことを知らない私たち」『朝日新聞デジタル』二〇一九年一二月一九日

 $[\]widehat{42}$ (文春オンライン、二〇一九年一二月三〇日〔https://bunshun.jp/articles/-/22033〕)。 -日韓危機の根源』文藝春秋、二〇一九年。 日本で一一月に刊行された同書の発行部数は、 翌月半ば時点で三六万部に達した

⁴³ 「文在寅大統領ら韓国の articles/-/22058 『進歩派』に敵意むき出し 澤田克己が語る『反日種族主義』」文春オンライン、二〇一九年一二月三一日 (https://bunshun.jp/

国際指標に見る日本と韓国(単位:位) 表3

	日本(⑥は東京)	韓国(⑥はソウル)
①民主主義指数 (2018)	22	21
②報道の自由度(2019)	67	41
③ジェンダー・ギャップ指数 (2019)	121	108
④一人当たり GDP (US ドル、2018)	26	28
⑤人間開発指数 (2018)	19	22
⑥世界の都市総合力(2019)	3	7

出典:以下をもとに筆者作成。① Economist Intelligence Unit, Democracy Index 2018: Me Too? (https://www. eiu.com/topic/democracy-index); ② Reporters without Borders, 2019 World Press Freedom Index (https:// rsf.org/en/ranking); ③ World Economic Forum, Global Gender Gap Report 2020 (http://www3.weforum. org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf); 4 IMF, World Economic Outlook, October 2019 (https://www.imf.org/ external/pubs/ft/weo/2019/02/weodata/index.aspx); ⑤ UNDP, Human Development Data (http://hdr.undp. org/en/data); (6) Mori Memorial Foundation, Global Power City Index 2019 (http://mori-m-foundation.or.jp/ pdf/GPCI2019 summary.pdf).

> 歓 質的になか 的 障 ない 迎 韓 環 民 ず 国 経 境 主 0 Ŕ 済的 主 0) 視 悪 義 指 化 つ B 男

とに耐 してめ 的 切 きわだつことも のかどう 執 してみよう。 経済的なトップラン L 村忠正によるネ のずら えら つづけることに着目すべきであ きだろう。 かはさておき、 n しくな 点から ない。 た 標をならべた表3にあるとおり、 のだ K 事 61 実であ イ す にも Ź ッ 耐えられ ツ思想史家 か 長 5 } 歴 ナー 年 る。 上 史 か 問 かわらず、 0) 九世紀 盟 だったことは事 言論 題 ない n 冷 の三 主 は 戦 が 0 先に検討 隣 期 後半 ゆ 一島憲 分析は、 くえに 0 国 0) こと日韓関係となるとなかなか明 東アジ 地 る。 から二〇 に認め 成立したことは 位 によると、 一日 から見下 す実であ アには たとおりだが、 b 一島の 1 グ れ 世 口 П な る る 紀 直観とある程 ッ H] してきた V >44 パ 日本が バ 本 か 0) ル 0 け 彼 街 ほ な視点からすると相 \exists 0 角 本節 かに自 本 つでも、 日 覇 (日本の) 九 0 本 権 度親 世 では 玉 が 紀 際 由 今 東 和 的 \mathbb{H} 環 民 ア う言 主主 的 人 B な 本 る 境 韓 で 々 \dot{O} 61 か ア あ は 玉 覇 側 展望 5 義 11

権 か

5

は

決 13 検

0)

村によると、

7

ショ

IJ

テ

イ

に属するが心理

的

に満たされない

非

マイノリティ」

る。

木

0)

政 が

方 そ 車

適

0 連 グ 帯。 口 1 13 バ ず ル れに な 女 せ 性 ょ 0) 連 日 帯、 韓 多 0 歴 か 史 ħ 少な 間 題 は今後ますます国民間 か n ミソジニー -を共 有 しやす 国 家間 男 の対立を 性 P 保

守

派

対

甘噛 み 0 け h

女

同

権

0

度

合

済

力や首

都

0)

魅

力、

そして北朝

鮮をめぐる安

H

韓

両

国

13

は

さまざまな面

皿でち

が

13

が

あ

るの

は

もちろんだが、

が

比 しながら 新 局 面 達するはずである

が

す 国 似

n は

ば 実

はない。 だけかもしれない。それでも、彼らの過激な言動にあおられて反韓・嫌中の傾向を持つようになるネットユーザーがいてもおかしく の少数派をふくむ)への違和感をおもな動機としている。また、ヤフーコメントでは一部の者が差別的な内容を量産しがちなのに対 よるネット投稿は、 リベラル志向の者はコメントをひかえる傾向にある。この分析をもとにすれば、ネット右翼の存在は実体より大きく見えている(※) 第一に韓国や中国への憤り、第二に「弱者利権」を不当に享受するマイノリティ(障がい者やLGBTなど国内

しれない。 部の日本人からすると、 評論家の橘玲は、 あけすけに次のようにのべる。 表3にあるとおり元植民地の国が一人当たりGDPで日本と肩をならべるとは、不都合な事実なの かも

ネトウヨが中国や韓国に異常にこだわる理由は「歴史問題」だけでなく、「アジアで(あるいは有色人種で)もっとも優れた民 リカ人の著者が書いた嫌韓本がベストセラーになっていることからもよくわかる。 族」という日本人の優越感を彼らが脅かすからだろう。これが白人(欧米)へのコンプレックスの裏返しでもあることは、 アメ

大多数の日本人は良心的で、穏健である。 る点はやはり注視すべきであろう。 街場の一部の人間が、 同じ国に住むうっとうしいエスニック・マイノリティをゴキブリと表象してのける世情でもあ 日本人のかかげてきた平和主義を馬鹿にしてもらっては困る――そうした言もしばしば聞

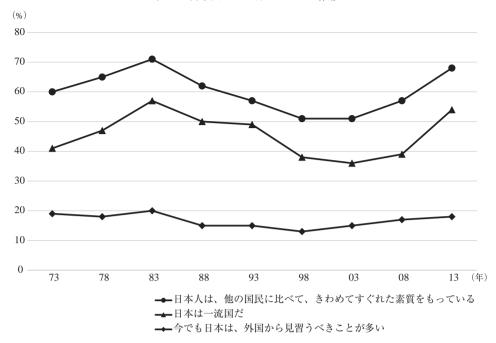
⁽⁴⁾三島憲一「醜悪で滑稽な覇権志向」『世界』二〇二〇年一月号、一五九頁

⁴⁵ 手塚治虫 で「特別白人」として遇されるコマがある。 『きりひと賛歌』 (第一巻、小学館文庫、一九九四年、八七頁。初出:一九七○─一七一年)には、南アフリカに出張した日本人医師占部が、 現地

⁴⁶ 「『ネット世論』で保守に叩かれる理由 ·NC研究の質的方法と実践』 二〇一八年、二八二~二八九頁 - 実証的調査データから」 『中央公論』二〇一八年一月号、 一三四頁。 同 『ハイブリッド・エスノグラ

⁽红)橘玲『朝日ぎらい――よりよい世界のためのリベラル進化論』朝日新書、二〇一八年、七七頁、





出典: NHK 放送文化研究所編『現代日本人の意識構造』第八版、NHK ブックス、2015 年、120 頁。

が、

歴史問

.題にまつわる経済問題やGSO

M I A

(軍事

情報

包

保護協定

問題が尾をひいたことは容易に想像がつく。

から大幅に上がった。

これは

七八年の調査開始以

来もっとも高

答した者の割合は七一

五パーセントで、

前年の五八パ

セ ح

ント

口

「どちらかというと親しみを感じない」「親しみを感じない」

る

と答えた者の割合は、

実に七割にとどくほどである。

日本人は、

他

の国民に比べて、

きわめてすぐれた素質をもってい

れとは別に、

内閣府

の世論調査

=

一九年実施)

では、

韓国 またそ

ない。 と親しみを感じない」「親しみを感じない」と回答した男性は ついことをあげる。 市民権を得てきたことは重要である。 視できない なまでに否定される日本では、 景として、 先に見た内閣 政治学者のヤシャ・ \mathbb{H} 本で嫌韓ムー 移民問題や経済格差に不満をおぼえる若者の支持が のだが、 府の その一 世論調査結果を分析すると、 だが欧米とはちがい、 モンクは、 K が明ら 方、 最近二〇年で韓流文化がすっ かに高まってきた点はたしかに ポピュリズムがそれほど顕著では 欧米でポピュリズムが高まる背 正式な移民がかたくな 「どちらか およ か Š n あ

ここで 診り を 確 右の Ú 認 しておこう。 検討 おおむ の傍証となる、 ね 九 表4を見ると、 八〇年代前半のバブル期にとどく水準 ナショ 二〇一三年段階 ナリズムと嫌韓感情 での \mathbb{H} 0 本 高

人の まり

であることがわかる。

たとえば、

「日本は

一流国だ」と答えた者の

る。

割合は三〇歳以下をふくめほとんどの世代で五割を超えてい

感情悪化のささやかな歯止めになっていると評価できるのではないか。 性や若者のほうが韓国文化に親しんでいるというイメージに沿う結果であり、この点からすると韓国の文化的なソフトパワーが対韓 そ七八パーセントであった。一方、女性はそれより約一○ポイント下回っている。また、同じ回答の年代別割合を見てみると、四○ 歳以上は七割超で、七○歳以上は実に七八パーセントを超している。一方、一八~二九歳は五○パーセント強にとどまる。まさに女

韓の近現代史をよく知らない者は多い)。歴史問題は彼らからすれば実用的ではないからであり、正しさと実用性は必ずしも両立しな 没頭し、正しい認識をめぐって応酬し、若者を教化するに努めようと、とうの本人からすれば知ったことではないだろう(実際に日 TSやTWICEにハマる。 日本の若者は、 韓国など東アジアの若者が使いはじめた黒色マスクを好んで買う。男女問わず韓国の若者のメイクをまねする。 ソウルのコンサートに参加し、語学留学のみならずダンス留学もする。 いかに左右の勢力が歴史問 В

ルギーなく接すること、 とらえられていない。むしろ周囲にいる少し上の先輩や大人たちが注目する隣国の文化にみずから足を踏みいれるほうが、よほど理 定的悪化に歯止めがかかっているのではなかろうか。 ・イヴとウェンガーの古典的理論にしたがっていえば、 ―仮説的にはこのように考えられる。つまり、先に見たとおり日本人としての誇りが高いこと、隣国の文化にアレ 社会、 政治、 歴史の問題にさほど関心がないことが若者のうちに鼎立している。だからこそ、対韓感情の決 日本の若者にとって歴史問題の理解は社会に参入するための正統な学びと

49

[「]外交に関する世論調査 (令和元年10月調査)」(https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-gaiko/index.html)

聞き手:吉田徹・武田宏子「リベラル・デモクラシーをいかに維持するか」『世界』二〇二〇年一月号、

⁵⁰ ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー『状況に埋め込まれた学習 —正統的周辺参加』佐伯胖訳、産業図書、一九九三年

表5 日本と韓国の若者(13歳~29歳)の政治・社会意識(2018年/単位:%)

	日本	韓国
①自国人であることに誇りを持っている	61.2	53.1
②自国のために役立つと思うようなことをしたい	47.8	38.7
③政治に関心がある	43.5	53.9
④社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい	42.2	68.4
⑤私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない	32.5	47.3

備考:①②は「はい」の割合、③は「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計、④⑤ は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計をそれぞれ示した。

出典:以下をもとに筆者作成。内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度)」 $(https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf-index.html)_{\circ}$

> 橘 化

0)

ことばにあったように、

「アメリカ人の著者が書い

た嫌

韓

本

が ベ

> ス か

1

セ

ラ

]

13

な

0

7

0 真 政

歯 剣 府

止めとしての役割もありそうなだけに、

必ずしも嘆くわけには

な思いをよせる人びとからすればもどかしくはあるが、

者に

韓

両

0

対立

はい

ぜん熱

そうであるほど、

日本の若者は歴史問題を敬

遠する。

歴

一史や 左右 およ

害 Ė す

この世代には

対韓

感情

0

決定

インパ

クト

は

やはり

限定的だと評価できるだろう。

とはいえ、

こと歴史問題

に関

しては

Þ ぼ

0)

点をふまえると、

 \mathbb{H}

韓

0

歴史

問

題が、

そ

Ò

圏外にいるともいうべき日本の若者に

あ が 0 モ が n あ 信 る む あ 戦 デ 書 ことは保守 る 側 ると思 0 0) ル 店 Š T とは 背 ように日 に平 7 面 は n 後には、 7 1 ſλ さえ保守 b ľλ V) わ は 積みされていようと、 13 IJ b ħ やアメリカではなく、 る。 る。 ŕ のだろうか 本の若者の大半がしらけているとしてもなお、 派の中高年男性には慶賀すべきことなのだろう。 イをゴキ ゴ 北 派 丰 まさか血 朝鮮とアメリ 九 0) ・ブリ 九四 部 が ブ |年の リと表象することは、 すぐれたスプレー は が 見てとれる。 流れることはないだろうと踏 ル 書 カに先んじてリアルな日韓戦争が起きるは ワ 飛行機で一 |店離れがすすむ若者へのアピールにとぼしい。 ンダ 虐殺にさ あたかも彼らの 時間の隣国にいるケースのほうが多い で瞬殺されるこの Ļ イトスピ フ ツ 歴史戦 み、 族はツ 左右と日韓の歴史戦はつづく。 ーチやクライムの文脈 国で、 だが、 歴 は 史問題をディベ チ族をゴキ 本当にだれ 甘 ント 噛 ずは み 0) ブリとさげ ない け ギ 若者 h 1 ル との か } 52 死なない は 0 感覚で楽 0) 安心 ようで わ 口 1 す ŋ 0 1

感

二〇一五年には

イギリ

Ź

0)

コ

ラムニスト、

ケイティ

ホ

プキンスが対英移民をこうよんで

غ

ナリ Ŧī. が \mathbb{H} ズ ポ (V 本 1 ちじる 4 は 諸 ント上 H 外 しく高 本人のほうが大きいことがわかる。 国 であり、 0 Ξ 61 歳以下を対象とした二〇 移行期 また、 の正 公共的 義を経た韓国での市民運動やデモの根づき方を裏づ な問題に対 八 する有 方、 年 0 効 É 調 感覚 国 査 0 0) 政 (efficacy) 部 治や社会へ を表5に見てみると、 の関心は 韓 国 0) ほ うが 韓 国 ナ お 人 0 シ ほ \exists

ル

本

て、物議をかもした。

との規範がみちびかれる。一九五〇年代にかけてアメリカにうずまいたマッカーシズム(赤狩り)はその実践例であり、 対ソ政策を練ったジョージ・ケナンが、封じこめ(containment)という疫学のことばを使ったことを想起すればよい。こうした隠喩、***** 義者あるいはそうと見なされた者は、まさに現代の移民や難民にあたる存在であった。 の下では、「囲い込まれた身体に異物が侵入してはならず、その異物は直ちに外科手術によって切除されねばならない」(傍点原文) 冷戦当初のアメリカでは、「病原菌」と見なした共産主義を体内(国家内)に入れない/から排除するとの発想があった。国務省で

は、世界でさまざまな対象が癌とよばれてきた歴史に注目した。 日本では「腐ったミカン」のほうが一般的である――「腐ったミカンが一つでもあると、 だから、ほかのミカンを助けるためには、腐ったミカンをつまみ出さなければならない」。思想家のスーザン・ソンタグの場合 箱のなかのミカンはみんな腐ってしま

レトリック研究者の佐藤信夫のいうとおり、 直喩よりも隠喩のほうが受け手の想像力を必要とするだけに、ゲーム性が強い。 だか

- 51 近年、彼を保守論壇のプリンスとして仕立てあげたのは日本人のコーディネーターである。「ケント・ギルバート現象」を特集する『ニューズウィーク日本 版』(二〇一八年一〇月三〇日号)を参照
- 52 『歴史修正主義とサブカルチャー -9年代保守言説のメディア文化』青土社、二〇一八年、 第二章
- 53 ジグムント・バウマン『自分とは違った人たちとどう向き合うか― 難民問題から考える』伊藤茂訳、 青土社、二〇一七年、八八頁
- 54)永井陽之助『冷戦の起源』中央公論社、一九七八年、二二~二三頁
- 55 『3年B組金八先生』第二シリーズ第五回「腐ったミカンの方程式・その1」、小山内美江子脚本、TBS、一九八○年。もっとも、桜中学に転校した加藤 優(直江喜一)についてこうのべた荒谷二中の米倉教諭は、「いやしかし、腐ったミカンはあくまでもミカンで、人間じゃない。まして、人間の精神が一五や 六で腐り果てるわけがない。私自身、そう考えてやってきました」とつづける。ここに小山内のヒューマニズムが表出していることを無視すべきではない。
- (56)スーザン・ソンタグ『隠喩としての病い』富山太佳夫訳、みすず書房、一九八二年

芸術的野心と、 らこそ、 形式や決まり文句にあきたらない表現者や思想家は、 「喧嘩の際になるべく憎々しい表現 〔隠喩〕を工夫する子どもの心の動き」とは、まったく等価である。 ⑤ 人びとの共感をよぶ隠喩をあらたに生みだそうとしてきた。そうした

き在日は、 その数は減る一方だから、 しぶとく、 は目下のところ、 かは傷つけないですむ。 の癌はそのターゲットから外れている癌患者をも傷つけるが、 んかに際した隠喩の発明。二一世紀の日本の排外主義者にとっては、ゴキブリとしての在日コリアンのことである。隠喩として(88) 一九九〇年代以後の歴史戦にどう向きあえばいいのだろうか。 刹那に増殖し、 隠喩としてのスリッパに最大限注意をはらわねばならないという実存上の危機に直面している。 かつ、この隠喩が直観にうったえるイメージは黒光りしている。 増殖するとのいわれはない。しかしそんな些末なことを隠喩の使い手は問題としない。 排除に値する。 ネット右翼の主要ターゲットは在日特権を持つとされる特別永住者の在日コリアンだが、 普遍的害虫ともいうべきゴキブリとさげすめば、当のターゲットのほ 鳥肌を立たせ、 悪だくみをもって飛翔し、 では、 数が減りゆく在日 命を守るべ

お守りとしての歴史

双方の信念がさらに強化されてしまう。そこで彼が期待するのは、 かしいから、 韓国の歴史家林志弦によると、 今日まで日本人を「世襲的加害者」ととらえがちである。こうした韓国人の態度は日本の修正主義的な歴史観とぶつかりあ 独善的な両国民の立場にくみしない在日に、歴史の調整役を求めるということだろう。 「世襲的犠牲者意識」をナショナリズムと結びつけた韓国人は、かつて虐げられたことを「神 在日韓国人である。 歴史問題を日 **[韓の国民が収拾することは** 化

にあらがう戦術として「幸せの物語」 望の歴史をともに織りなすことが必要だと考えられる。 に直結しやすい。 であえて在日の一人としてやぶ中をさぐってみよう。 の反発はそのまま「在日特権」バッシング、 この提案は、 やぶの奥に迷いこんだボールを拾ってこいとの酷な指示ともとれるし、在日にとっては重荷でしかない。だが、 だとすると、 在日のみならず大多数の良心的な日本人がヘイトスピーチやクライムの犠牲とならないためにも、 を語ることを提唱する。 ひいては障がい者や生活保護受給者などをターゲットとする 先に確認した木村忠正の研究にしたがえば、 ドイツのジャーナリスト、 日本人とマイノリティが、 カロリン・エムケは、 あるいはマイノリティ同士が愛しあい、 ネット右翼のかかえる中国 マイノリティが排斥や憎悪 「弱者利権」バッシング 韓国 助 希

けあい、 在日にとって死を避けるためのお守りとなるのではないか。 傷をなめあう歴史・現在・未来は確実にあったし、あるし、あるだろう。それをともにふりかえり、掘り起こし、展望する

いし、 代以後の言語論的転回にもとづく構築主義を受容した立場からすれば、市民による物語(narrative)としての歴史は決して無視できな 歴史している。 にしている。保苅はそうしたいとなみを「歴史すること」(doing history) と呼んだ。学校教育を離れたあとも、 ティの核としていることを報告した。この例にかぎらず、市井の人びとはみずからの歴史観をある種勝手に形成し、それを生きる糧 今世紀初頭、 対抗的な物語はさまざまにあるべきだとされる。 むしろ尊重すべきいとなみである。とりわけ、 しばしば独特な解釈を加えながら過去をふりかえることで自己を肯定し、 人類学者の保苅実は、アボリジニの長老たちが事実としてとうてい認められないことを信じ、それをアイデンティ マジョリティがつかさどる支配的な物語に抗したり、それを相対化するためにマジョリティがつかさどる支配的な物語に抗したり、それを相対化するために 現在をとらえ未来を見すえる。一九七〇年 日々我々は知らずと

佐藤信夫『レトリック感覚』講談社学術文庫、一九九二年、一三〇頁

57

- 58 文学研究者の金哲は、 問いをひらく』岩波書店、 をさらけだしていると私は思っています」(金哲「抵抗と絶望― 異端者を粛清せんとする社会的な衛生観念を、国家権力の力によって実行しようとする点で、それ以前の親日派清算とは質的に区別される退行的な姿 韓国における「親日派」という語も隠喩と化しつつあると示唆する。「二〇〇〇年代以後、 二〇一七年、三二三頁)。 ―主体なき主体に向かって」浅野豊美ほか編著『対話のために―― 韓国社会で一層高揚した親日派清算の運動 「帝国の慰安婦」という
- $\widehat{59}$ 「『世襲的犠牲者』意識と脱植民地主義の歴史学」三谷博ほか編『東アジア歴史対話 -国境と世代を越えて』東京大学出版会、二〇〇七年、一七九頁
- 60 カロリン・エムケ 『憎しみに抗って― -不純なものへの賛歌』 浅井晶子訳、 みすず書房、 二〇一八年、 一八五頁
- 61 『ラディカル・オーラル・ヒストリ オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』岩波現代文庫、二〇一八年 (初出:二〇〇四年)。

だめようとしてきた。このためプロフェッショナルの歴史家は、 やすい。その弊害の最右翼と見なされてきたのが、 『日本国紀』を強く批判している。 九世紀からつづく歴史実証主義の立場は、 とはいえ、こうした歴史哲学的背景をもつ今世紀初頭の保苅の問いかけは、 『永遠の0』 Þ 『日本国紀』 などの一連の作品はその一つに数えられることがあるが、 史料批判をはじめとするきわめて厳格な歴史的思考をもって、® 国民としての誇りを前面に押しだしがちな歴史修正主義である。たとえば、 市民やアマチュアが手前勝手な歴史を織りなすことを当然白眼 正統的な歴史学からは閑却されるのがふつうだった。 近年では日本中世史家の呉座勇一 歴史的事実を客観的 百田 説視し が

そも市民や修正主義者がみずからの歴史観を形づくるにあたってアカデミズムに依拠するところは大きくなく、 あいだで支配的な物語として拡散しつつある一方、 と修正主義的だと見なされる見解が世間に広まりつつあることを考えると、その点は否定できない。 つ土俵がちがうからである。 ここで確認しておくべきは、いずれにしても非専門家たる市民たちの歴史するいとなみを誰も止めることはできない点である。 かつ、 矜持をもつプロの歴史家が高みから批判してきたとしても、 歴史実証主義の側からの批判は、 それがいかにまじめで誠実だとしても市民の心 修正主義者としてはあまり痛手ではない。そも 修正主義的な歴史こそが市 プロの歴史家とは立

碑が日本各地から撤去されるようになった。 関東大震災にさいした朝鮮人虐殺の歴史に都知事や都民の多くが向きあわなくなった。 がせまる時代となった。 中高生から老年世代まで在日特権なる存在を信じる者が増えた。 戦前から戦中の朝鮮人労働者の存在 あげく、 在日の命にス を示す

築する努力である。 歴史実践が必要なのではないか。 確な歴史的事実を画定するよりもまず優先せざるをえないことはある。 だとすると命を守るためには、 もちろん、こうした目的論的な立場を実証史学がきらうことは明らかだろうが、命を守るべき在日にとって、 国民ならぬ市民として在日みずからが修正主義的な歴史像を克服する、あるいは相対化するような 露骨にいえば、 支配的な物語と化しつつある排外主義的な歴史実践をしのぐような、よい歴史を構

明したり言い訳をしたり弁護したりするために、 語としての歴史を早くから推してきた哲学者のヘイドン・ホワイトは、 (practical past)との語を使う。そしてそれは、「人生を営んでいくなかで必要になるさまざまな活動について、正当化したり弁 個人や集団ができるだけうまく持ち出す記憶、 政治学者マイケル・オークショットにならい 幻覚、 とりとめもない情報の断片、 「実用 的

態度や価値などから」構成されるとのべる。 (81)

は、 生きるためにも市民みずから歴史を織りなすこと-さしあたりここでの問題ではない。社会科教育を研究する渡部竜也は、 を助けた話、昔はもっとすごかったぞという話などが多いようです。教訓めいたオチがあることもあります。そしてこうした歴 地域共同体、学校・会社・サークルの来歴を教えてくれる歴史物語は前向きな内容が多く、苦難を乗り越えてきた話、人 -学知の追究を第一の目的とはしないこうした歴史実践が正しいのかどうか 実用的な歴史の特徴をいみじくも次のように抽出する。

的です。ただ、その組織や共同体の構成員であれば、その多くの人が語ることのできる話である点に共通性があります。 史物語の多くは、だいたいご都合主義です。史実の信憑性がないことも多く、何より話題が極めて個人的または地域・集団固

ション」(イヴァン・ジャブロンカ)ががぜん有力であることは、先の百田の作品や、さまざまな映像作品が人気を博していることか 非専門家たる市民が歴史を構築するにあたっては、事実をつらねることを前提とした歴史書の執筆のみならず、「方法としてのフィク らたしかである。マイノリティにフォーカスした近年の作品としては、 八年)などがその一例である。 戦後の在日の姿を描いた『焼肉ドラゴン』(鄭義信監督、二〇

市民による歴史の構築プロセスに専門家が参画しないかといえば、決してそうではない。徐々にではあるが、 日本の人文・社会科

- 62 歴史実証主義の大まかな特徴を次の四つにまとめる。①史料の厳密な読解と出典の確認、②証拠や論拠のある歴史的推論 (渡部『Doing History-――歴史で私たちは何ができるか?』清水書院、 二〇一九年、三八頁)。
- 64 63 ヘイドン・ホワイト『実用的な過去』上村忠男監訳、岩波書店、二〇一七年、二二頁 『日本国紀』幻冬舎、二〇一八年。呉座の批判は、 『朝日新聞』 朝刊、二〇一八年一二月四、一一、一八、二五日付のコラムを参照
- (65) 渡部、前掲『Doing History』、七二頁。
- 66 イヴァン・ジャブロンカ『歴史は現代文学である― は自分が望む以上に文学的であり、文学は自分が思う以上に歴史学的である。どちらも柔軟で、並外れた可能性をひめている」とものべる(同上、三頁)。 社会科学のためのマニフェスト』真野倫平訳、名古屋大学出版会、二〇一八年、第八章。

場の 外の専門家も参画するし、 ブリ 学でもパブリック・ヒストリーとよばれる分野が認知度を高めつつある。 人の現在と未来に「役立てる」ことをあげる(⑤) の社会へと飛び出して、 ヒストリー を「狭義には歴史学の分野で何らかの訓練を受けた人びとが、 市民との協働もまた日常的である。菅は、パブリック・ヒストリーの目的として、「いま、ここ」に生きる そこで歴史学の知見や技能、 そして思想を活かす幅広い実践」と定義する。ここには歴史学者以 この分野の標準的テキストを編んだ民俗学者の菅豊は、 大学の研究室や教室といった専門的で学術 的

内泰介の協働がある。一市民である佐藤は祖母の文章の美しさにひかれ、 の小さな物語を表に出すことで、「大きな物語と小さな物語の配置」が換わると指摘する。(8) 記にある単語の注づくりに参画した。そして日記を冊子/PDFにまとめ、 のブログを見つけた宮内は、 市民や専門家の知恵と知性をまぶしながら、パブリック・ヒストリーへ昇華したのである。 多い日は一日七〇名ほどのアクセスがあり、 祖母八重子(一九一八年生)の一九四九年から五二年にかけての日記に接した宮城県の佐藤恵子と、 日記に書かれた北上町をフィールドに研究していたこともあり興味をおぼえ、ほかの研究者とともに日 みずからの祖母に重ね合わせた閲覧者から感謝のことばもとどいた。たまたまこ その内容を広く知ってもらおうと少しずつブログにアップ 公開勉強会も開催した。 宮内は、 個人の日記が、 放っておくと埋もれたまま 環境社会学者 孫の手をへ の宮

歴 とふれあった社会学者の中村寛はより大胆に、 お、 もありうる。 義が市民のあいだで広がる可能性はある。 なるほど、 ベンヤミン流にいえば、 マイノリティが社会で生きのこるための小さな物語をつむぎかえすことは必要だとの立場が、少なくとも学界の外にはあってよ の可能性を展望する。 暴力的な歴史修正主義の繁栄を再帰的にまねくことさえ想定される。こうした至極まっとうな懸念を呑みこんだ上でな 右で見たような歴史のアマチュアたる市民が中心となった歴史実践が広がると、「それも歴史だよね」との冷めた相 マジョリティによる支配的な歴史の物語を 歴史的事実を正しい手法により追究する実証主義の姿勢までもが相対化されてしまうこと 「『大文字の歴史』に刃向かい、 「逆なでする」エトスである。ニューヨークの黒人ムスリム^(®) 抗い、 肩すかしをくらわせ、 静かに毒を盛りつづけ 対 主

ずつ権利を獲得してきたし、 在日への差別的処遇もそこここに残っている。とはいえ、 たしかに日本人と在日は対立してきたし、 日本人からする接し方が改善を見てきたことも事実である。 前者が後者に強圧的に接するところも少なくなかった。そのなかで、 荒々しい修正主義的な物語が幅をきかせつつある今あらためて掘り もちろんこの社会はマイノリティに冷た は 少し

こすべきは、 この社会で生きる素地をととのえてきた事実ではなかろうか 在日が誠意ある日本人と手をたずさえながら、恋愛に身をひたしながら、反目しながらも互いの存在を認知しあいなが

なら、 に乗りきった隣人は、 れる寛容の精神は、 るはずである。そうすれば、大多数の良心的な日本人も、在日とともに歩んできた過去をすすんでふりかえろうとするのではないか。 日にとってスリッパの襲来をさけるお守りとしての歴史の鉱脈は、おそらく後者にあろう。「冴えない美徳」(フォースター)とも評さ 起こしも重大だが、現代日本社会ではそれを丸ごと受けとめ共感できるだけの寛容さが明らかに目減りしつつある。だとすれば、 ジャニーズの東山紀之(一九六六年生)は、 過去に抑圧されてきた事実と同時に在日と日本人が協働してきた事実もまた、まさにかき消されそうようとしている。 万感の屈辱的過去をいったん呑みこみ、寛容の精神を拾いあげながら日本人との協働の過去に思いをいたすことが何とかでき 捨ておくにはあまりに惜しい。戦後、「ほうるもん」(捨てさる部位)をホルモンとしてこの国に根づかせた在日 やはり生活の苦しい在日の母子だった。東山はその家庭でたびたび豚足などをごちそうになったことを自伝で 幼少期を在日の多い神奈川県川崎市の桜本で過ごした。彼の一家が貧しい生活をとも 前 者の 在

- 67 菅豊「パブリック・ヒストリ 回 -現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性」菅ほか編、 前掲『パブリック・ヒストリー入門』、(一)、(三)
- (8)宮内泰介「『八重子の日記』をめぐる歴史実践」菅ほか編、同上書、二四〇頁。
- 69 柿木伸之『ヴァルター・ベンヤミン--闇を歩く批評』岩波新書、 二〇一九年、 一九六~二〇四頁
- 『残響のハーレム― ーストリー トに生きるムスリムたちの声』 共和国、二〇一五年、二九頁
- $\widehat{71}$ 林晟一『「一等国」ニッポンの背中 hayashi/war_b_8024316.html -終戦70年・日本・韓国』ハフィントンポスト日本版、二〇一五年八月二三日 (https://www.huffingtonpost.jp/seiichi-
- 72 小野寺健編訳『フォースター評論集』 岩波文庫、 一九九六年、 一三八頁。 中西寛 『国際政治とは何か 地球社会における人間と秩序』

にて記したことがある。 感謝している。筆者の場合は反対に、 精神的につらかった幼少期を近所の日本人家庭に支えてもらったことがあり、 その歴史を旧

側の在日の青年が応援に駆けつけたのである。その在日の青年は、次のようにふりかえる。 パレードに参加したゲイの青年たちは、後日、ソウルでのLGBTのデモに参加することにした。すると今度は、大阪で支えられた ジャーナリストの木村元彦は、ヘイトスピーチに反対する大阪でのパレードのさい、在日に協力するLGBTの姿を描いた。その

あげたら、たどたどしい韓国語で一生懸命「チャビョル・パンデ(差別反対)」って叫んでるんですよ。(②) 日本から〔ソウルに〕応援に来たゲイの子らが泣けるんですよ。「韓国語で差別反対って何ていうの?」て聞いてくるんで教えて

実証的な歴史とならんで、だれも死なないための歴史の構築が日本人と在日の市井に求められている。クレマンソーのひそみにな 用に支えあってきた。いつどこで誰がヘイトスピーチやクライムの対象となってもおかしくない時代、在日がお守りとしての歴史を織 らっていえば、 うとする歴史修正主義にあっかんべえをしながら併走する歴史実践は、やがてきたるべき移民国家日本のよき礎にもなると思える。 りなす努力はマイノリティが生きながらえることにつながるのではないか。過去を強引にふりかえり国民のプライドを独善的に満たそ マジョリティとマイノリティ、またマイノリティ間の境界線をふみにじり、あるいは地下から突破しながら、我々はいつだって不器 「在日の場合、日本人が憎いという場所にとどまっている限りは絶望しかないんです」――ときに在日は、 (lesser evil)を恐るおそる呑みこむほかない。一つの善の固守はしばしば血色の犠牲をともなう。そのことを念頭に、 歴史は、 歴史家だけに任せるにはあまりに重大なのである。文字どおり、 命がかかっているのだから。 無垢なる善をえらべず、

おわりに

会、そして在日コリアンの視点から検討した。ここで明らかになったことは以下のとおりである。 本稿では冷戦終焉後にグローバルな広がりを見せた歴史問題の背景を確認した上で、日韓の歴史戦が持つ意味を韓国社会、 日 1本社

冷戦後には 女性の人権が尊重されるようになったことに支えられた。 「謝罪の時代」が到来したと同時に、民主化後の移行期正義の実践が広がった。これは、 日韓の歴史戦、 なかでも慰安婦問題において、こうしたグロー 国際刑事裁判の制度が発展 ・バルな

に回復しようとする歴史修正主義から身をかわし、命を守るためのお守りとなるはずである。 だろう。では、 韓国側の姿勢に眉をひそめる人が多いが、 今後慰安婦問題は日韓の枠組みや国民間の断層線をこえた形でさまざまな問題を提起することになるだろう。日本社会からすると、 潮流と韓国側の姿勢は軌を一にするものだといえる。そのため日本を相手とする政治的妥協が困難になりつつあるが、いずれにせよ た過去の追憶を深めると同時に、 決定的悪化の歯止めとして期待されるが、そもそも若年層の歴史 在日はこの歴史戦の時代にどう向き合えばいいのだろうか。少なくともこの国に住みつづける人間として、虐げられ 在日と日本人が協働してきた過去を掘りかえすことが大事だろう。これが、ナショナリズムを強引 韓流を積極的に受容している女性や若年層の嫌韓感情は限定的である。これは日韓関係の (問題) への興味が薄いことからして、安直な期待はひかえるべき

リティにとって何らかの糧となりうる。 きたるべき移民国家ニッポンを見すえ、古い移民でもある在日が歴史をめぐってもがきあがく姿は、未来のこの国の市民やマイノ 暗中模索をつづけるほかない。 中等教育に身をおき歴史を講ずる者として、ものごとを正しく恐れる姿勢を大事にしなが

⁽⁷⁾東山紀之『カワサキ・キッド』朝日文庫、二〇一五年、二一~二二頁

 $[\]widehat{74}$ 林晟一「排外主義とささやかな希望」ハフィントンポスト日本版、二〇一四年十二月八日(https://www.huffingtonpost.jp/seiichi-hayashi/chauvinism_b_6286354.html)。

 $[\]widehat{75}$ 木村元彦 『橋を架ける者たち -在日サッカー選手の群像』集英社新書、 二〇一六年、 一九六頁

⁽⁷⁶⁾加藤典洋・竹田青嗣『二つの戦後から』ちくま文庫、一九九八年、二八六頁(竹田の言)。